

児童発達支援事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和 年 月 日

公表:令和 4 年3 月30 日

事業所名 いちごROOM

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|--|--|----|---------------------------------------|---|--|
| 環境・体制整備 | 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | 7 | | 2店舗あるので、利用者人数の調整をして、十分なスペースが確保できるようにしている。 | |
| | 2 職員の配置数は適切である | 7 | | 資格者が既定の配置人数を確保しつつ、配置数以上に職員配置している。 | |
| | 3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている | | 7 | 建物の2階に事業所があり、階段には手すりが設けてある。室内は、玄関・トイレに少し段差はある。それ以外は、バリアフリー構造である。 | 危険のないように、常に声掛けをしている。階段の昇り降りでの歩行訓練になっている利用者もいる。 |
| | 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている | 7 | | 毎日、掃除・消を徹底して行い、清潔に保ち、感染予防にも努めている。子ども達の活動に合わせて、机を出したり、玩具・遊具などマットを出したりしている。 | |
| 業務改善 | 5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | 3 | 4 | 月1度の事業所内での勉強会をしている。 | |
| | 6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 3 | 4 | 職員会議で、各問題点を検討、今後の改善へ繋げるようにしている。 | |
| | 7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 3 | 4 | すてっぷサポートホームページに公開 | 自社のホームページに掲載,更新していく |
| | 8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | 7 | 職員、保護者以外の評価を頂く機会を設けていない。 | |
| | 9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 7 | | 月1度の事業所内での勉強会をしている。外部研修に職員の経験年数、スキル等を考慮して参加している。 | |
| 適切な支援の提供 | 10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | 5 | 2 | アセスメント表や保護者からの口頭、又は連絡帳によりニーズを把握している。 | |
| | 11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | 7 | | 標準化された外部アセスメントツールを使用している。 | |
| | 12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | 4 | 3 | 子どもの個々に合わせた具体的に設定している。 | |
| | 13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている | 5 | 2 | 職員会や勉強会で検討している。 | 職員全員が支援計画を把握しているとは言えないので、伝える場や機会を設けていく。 |
| | 14 活動プログラムの立案をチームで行っている | 7 | | 正社員を中心に何を行うか話合っている。 | |
| | 15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 7 | | 毎月の定期的な活動とその日の利用者のメンバーで適切な支援を考えて行っている。 | |
| | 16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している | 4 | 3 | 子どもの得意、不得意を考慮し作成している。 | |
| | 17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 7 | | 利用者メンバーの確認や注意事項を共有できるように開始前に打ち合わせをしている。 | 打ち合わせの時間を決めて、細かい打ち合わせ、周知できるようにする。 |
| | 18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | 2 | 5 | 帰りの送迎で事業所に帰ってくる時間にバツキがあり、最低限いる職員で行うが、申し送り等は、翌日に伝えるようにしている。 | 伝え忘れ等もあるので、書面にて記録が残せるようにしていく。 |
| | 19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 7 | | 業務日誌等により記録している。 | |
| 20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している | 5 | 2 | 出来るようになったこと、クリアした場合は次のステップに計画を変更している。 | | |

| | | | | | | |
|--------------|--|--|---|---|---|--|
| 関係機関や保護者との連携 | 21 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | 7 | | 相談支援事業からのモニタリングについては、児発管が対応している。担当者会議にも出席して、意見交換など情報集をしている。 | 会議参加の要請があれば、日程調整をして随時参加していく。 |
| | 22 | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている | 7 | | 支援関係者の訪問、電話等で連携している。 | |
| | 23 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている | | | 該当者なし | |
| | 24 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている | | | 該当者なし | |
| | 25 | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | | | お迎えの時に、先生と情報共有を行っている。 | |
| | 26 | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | | 7 | 現在、小学校への移行支援はしていない。 | |
| | 27 | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 7 | | 電話などで助言を頂いたり、専門機関の方の訪問時に話し合ったりしている。専門研修にも参加している。 | |
| | 28 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | | 7 | 保育所等の交流はしていないが、町内のお祭りや、子ども食堂での障害のない子どもとの関わりが以前はあったが、コロナの影響で機会がない。 | コロナが落ち着き、町内の祭りや子ども食堂等の機会も増えるので検討していく。 |
| | 29 | (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している | 5 | 2 | リモートでの参加が主になり、参加している。 | |
| | 30 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | 7 | | 連絡帳でのやりとりや、送迎時に直接保護者に伝えさせてもらっている。 | |
| 31 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている | 5 | 2 | ペアレントトレーニングは、行っていないが、保護者からの悩み、相談については、その都度、助言をしている。 | 今後、ペアレントトレーニングの必要があれば検討していく。 | |
| 保護者への説明責任等 | 32 | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 7 | | 契約時に説明している。 | |
| | 33 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている | 7 | | 面談時に行っている | |
| | 34 | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 7 | | その都度、助言させてもらっている。職員にも周知している。 | |
| | 35 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | 2 | 5 | 父母会は結成されていないが、いちご祭りや、保護者同士の交流の場を設けた。 | 父母の交流できる機会を増やして行こうと思っているが、コロナの影響も考慮して検討していく。 |
| | 36 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している | 7 | | 担当者が迅速に対応している。 | |
| | 37 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | 7 | | 月1回 いちごだよりを発行して、取り組みや予定など、お知らせしている。 | ホームページ、ブログ等、随時更新していく |
| | 38 | 個人情報の取扱いに十分注意している | 7 | | 事務所の施錠できる場所に保管している。 | |
| | 39 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 7 | | 電話、FAX、メール、筆談等工夫をしている。また、送迎時に対応している。 | |
| | 40 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | 7 | | ご近所の方、町内の方や町内会長を招待した、いちご祭りを開催した。 | |

| | | | | | | |
|---------|----|--|---|---|--|--|
| 非常時等の対応 | 41 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している | 4 | 3 | マニュアルを作成し、職員会議や勉強会に使用し、訓練している。 | マニュアルの見直しを随時、行っていく。 |
| | 42 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 4 | 3 | 月1回 子どもと一緒に火災、地震、水害、不審者等の訓練をしている。 | 非常時の備えの充実 |
| | 43 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している | 7 | | 保護者からの説明と聞き取り、アセスメント用紙、から状況を確認している。日常的には、保護者からの連絡で対応している。 | |
| | 44 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | 7 | | 保護者からの説明、アセスメント用紙、診断書等で対応している。 | |
| | 45 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | 7 | | ヒヤリハットの様式の用紙の変更をして書きやすくした。すぐに確認できるようにファイルが置いてあり、いつでも閲覧、共有ができる。 | |
| | 46 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 7 | | 事業所内の虐待防止の勉強会を行ったりして、知識とスキルの獲得を目指している。 | 今後も、研修、勉強会を充実させて職員同士の指摘できる関係構築を目指していきたい。 |
| | 47 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している | 2 | 5 | 保護者には、契約時や面談で説明をし、同意書を頂いている。 | 児童発達支援に記載していく |

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。